花紀行

草木や花に惹かれ、いろいろ見に行きたくなるのはなぜだろう。江藤淳は『成熟と喪失』（1967）の中で、「日常性の危うさを感じる人が、草木や花といった自然に目が行く」と書いている。私の中に何か危うさがあるかもしれない。でも人は歳と共に関心が、花→盆栽→石と移るといわれる。石を愛でるようになったら危ないが、花や草木ならまだ大丈夫かもしれない。

さらに、江藤淳は「自然に関心がない人は、人工的なものに浸食され、自然を奪われ、人間に集中することを余儀なくされている」とも書いている。草木や花への関心は人工的なものへの浸食が少ないともいえる。この1年半くらいの「花紀行」をまとめてみる（ブログの方には、それぞれ数枚の写真も掲載している）。

1. 菜の花が満開

千葉市にはまだ自然が残っている。ただ財政難なのか自然が手つかずで放置されているところも多い。家から車で10分のところにある花島公園の下を流れる花見川沿いは、いい散歩道・自転車道になっている。しかし川べりは雑草が生い茂り、夏草が枯れたままになっていて風情もない。ただ川べりの一部に小学生が種を植えたという菜の花が今満開で、散歩が楽しめた。

　その菜の花を見ながら、今朝you tubeで聴いた曲（南沙織が吉田拓郎と「菜の花をあなたに摘んであげたい」という歌う曲「春の風が吹いていたら」）が耳の奥で鳴った。

（2021年3月6日）

２　季節の花

今日（５月３日）は稲毛海浜公園にある千葉市の「花の美術館」に行った。「花の美術館」は、温室の建物で中にいろいろな花が生育しているが、外や館内や中庭でも様々な花が楽しめる。外は今の季節は、バラやポピーが綺麗。館内は、ジキタリス、ストック、アジサイ、ランなどがアレンジされ咲いていた。中庭には、上品なシャクヤクと春のコスモスのような花＝アグロステンマが花時で見とれてしまった。

このように季節の花に魅かれ、つい時間があるとそれを見に行きたくなるが、草木や花に魅かれるのは歳のせいかもしれない。若い時は、草木や花に興味はなかったように思う。また、歳をとったからといって誰でも草木や花に皆惹かれるわけでなく、惹かれるのは精神的に悩み、何かの埋め合わせのようなものを必要としているのかもしれないとも思う。卓球仲間に聞いても、菜の花を見に行ったり、「花の美術館」に行ったという話をほとんど聞かない。

江藤淳は『成熟と喪失』(（1967）という名著の中で小島信夫 の『抱擁家族』に言及し「外部の自然は、非日常的な、きわめて特権的な瞬間しか登場人物の意識にのぼらない。（それは妻に不貞を告白されて）、日常生活の次元からものの次元につきおとされた俊介の眼に映じた暁方の庭である」と書いている。このように、日常性の危うさを感じる人が、草木や花といった自然に目が行くのかもしれない。（逆に別の箇所で）江藤淳は「むしろ作者は描くべき自然を奪われ、人間に集中することを余儀なくされている」とも述べている。この指摘に従えば、自然に関心がない人は、人工的なものに浸食され、自然を奪われ、人間（関係の悩み等）に集中することを余儀なくされているとも考えられる。（2021年5月3日）

３ 茨城県のコスモス畑に行く

今日（10月3日）は天気もいいので、千葉から途中の高速道路が空いている茨城県に行くことにした。茨城県の潮来の畑のコスモス畑が綺麗というネットの情報を見て、車で北千葉より関東自動車道に乗り潮来を目指した。

関東自動車道は空いていて１時間弱で、目指すコスモス畑に着いた。駐車場もなく、観光客はちらほら20名程度。広大な畑一面にコスモスの花が咲いていて壮観であった。しかし、2日前の台風の影響で花がかなり散っていて、少し残念。(2021年10月3日)

４ 日光、水上の紅葉

例年であれば、10月下旬は紅葉の季節であろう。この週末は、紅葉を求めて千葉から北上したが、どこも紅葉はまだで、綺麗な紅葉は見ることができなかった。

車で日光のいろは坂を登り、さらに中禅寺湖畔を少し登ったところにある半月山展望台から、日光の中禅寺湖と男体山との眺めると、色づき始めた木々の葉はきれいで、それなりに楽しめた。

今回のコースは、日光→奥日光→片品→沼田→月夜野→苗場→湯沢→六日町→八海山→苗場→猿ヶ京→水上→谷川岳である。

紅葉がまだの為、苗場のゴンドラと谷川岳散策を諦めたのは残念。温泉は、苗場、湯沢、猿ヶ京で入った（皆、源泉かけ流し）。

特によかったのは、丸沼高原（山や道には雪）、苗場のボードウォ―ク（フジロックの名残り）、美味しいヘギ蕎麦（中野屋・塩沢店）、魚沼スカイラインの眺め、水上の辺鄙なところにある気品のある「天一美術館」である。紅葉の時期に再訪したい。（2021年10月24日）

５　紅葉 リベンジ（苗場）

前回千葉から北上した折、どこも紅葉には早過ぎて見ることはできなかった。そのリベンジで、11月3日と4日、苗場のドラゴンドラと谷川岳の山麓に紅葉を見に出かけた。

前回の訪問からたった10日しか経過していなかったが、山の様子は一変して、紅葉の真っ盛りであった。

しかし例年より紅葉が遅いこともあって、（新型コロナ禍の自粛のせいか、紅葉時期の予測を見誤った人が多かったせいか、）紅葉を見に訪れている人は少なかった。3日の祭日の苗場プリンスホテルの駐車場も地元の車ばかりで、観光バスも1台も見なかった。

苗場のドラゴンドラもほとんど待つことなく乗れた。ゴンドラから見る苗場の紅葉は、日本一の眺めかもしれないと思うほど絢爛たるものであった。ゴンドラの下のボードウォークも散策したが、紅葉が見頃なのに、誰にも会わなかった。

苗場から水上に出る峠の道を行く車もほとんどなく、そこから谷川岳のロープウエイ駅に行く道も空いていて、谷川岳の山麓の紅葉もゆったりと鑑賞できた。

谷川岳の帰りに昼食で立ち寄った水上高原ホテル（旧水上プリンスホテル）のゴルフ場の芝生と紅葉も素晴らしいものだった。(2021年11月5日）

６　稲毛海浜公園の菊展に行く

今日は、菊展を見たいと思い、稲毛海浜公園に行った（家から車で15分）。

そこの菊展はいつも11月の上旬に菊好きの年寄りが開いているもののようで、数十鉢の小規模なものあるが、個々の菊に気品があり、見ていて心が落ち着く。

菊の鉢も販売しており2鉢購入した。公園内の花の美術館では、ハロウィーンの終わりクリスマスの飾りつけが始まっていた。

稲毛の浜は波もなく、水は比較的綺麗で、家族連れが波遊びを楽しんでいた。（2021年11月9日）

７　検見川浜の皇帝ダリア

近所に皇帝ダリアが群生しているところがあるというので見に行った。いつも行っている検見川浜の近くの県立検見川高校のグランド脇である。20本以上の皇帝ダリアの幹から咲いたピンクの花が今満開で、壮観であった。数人の人が見に来ていた。

帰りに寄った検見川浜は、今日は風がなく、穏やかな海で、ウインドサーフィンも波間に立ち往生であった。キャバリヤ犬に２匹会い、海で泳いでいる犬も見て、心落ち着く休日となった。（2021年11月14日）

８　外房御宿の皇帝ダリヤ、皇帝ヒマワリを見に行く

今年皇帝ダリアは近所でもう十分見たと思ったが、今日の朝日新聞千葉版の朝刊に御宿の皇帝ダリアとヒマワリが今見頃という記事が載っているのを読んで、やはりそれを見たくなり出かけた　(家から車で1時間40分)。

家を出た時は晴れていたが途中から雲行が怪しくなり、外房の御宿に着いた時は大雨だった。それでもここまで来たのだからと、傘をさして皇帝ダリアを見に行った。

1カ所は一重だけでなく八重の皇帝ダリアたくさん咲いていた。もう一カ所は少し内陸に入った畑のところで、皇帝ダリアは少ないものの、黄色い皇帝ヒマワリが群生していて楽しめた（朝日新聞を読んだ人は多いと思うが、来ていた人は数人。）

御宿の海を見るのは1年ぶりだが、相変わらず広い砂浜や水はきれいで、人は少なく、サーフィンをする人がちらほらいる程度。御宿唯一の茶色のドロッとした温まる温泉場は閉鎖されていて入ることはできなかった。その他閉鎖されている店がいくつもあり、地方都市の人口減少と新型コロナの影響を感じた。（2021年11月18日）

９　梅の季節　―昭和の森公園に行く

季節の花を楽しむというのが、歳を持ってからの恒例行事になっている。昨年は、2月23日に土気の「昭和の森公園」（車で30分）に行き、満開の梅を見ている。今年も今梅が満開だろうと、今日（2月25日）、同じところに出かけた。

今年は寒さが続いたのか、まだ咲いていない梅の木も多く、少しがっかり。「昭和の森公園」は、今の季節は梅以外ほとんど花もなく、菜の花もまだ先のよう（１分咲き）。遠くに九十九里の海が見えた)。

これから、まだ梅、菜の花、ストック、チューリップ、桜と、いろいろ花をいろいろな所に見に行くのが楽しみ。帰りに寄った家の近くのホームセンターでは、春の花がたくさんあり,いろいろ買い庭に植えたくなり困った。（2022年2月25日）

10　南房総に頼朝桜を見に行く

もう春の桜（ソメイヨシノ）の開花予定がテレビで報じられるようになっている。順序として、梅や河津桜（千葉では頼朝桜）のお花見をして、それからソメイヨシノの桜を見ないと、季節感が狂ってしまう。

今日は、天気もよく、内房を経由して、富士山も見ながら、南房総の佐久間ダムに、頼朝桜と梅を見に行った(車で１時間半）。佐久間ダムには水が戻り、まだ水仙も咲いていて、満開の頼朝桜と梅を堪能した。

道の駅で、季節の野菜と花の苗を買い、これで桜の季節を迎えられる（2022年3月7日）

11　桜とモノレール

今年は、桜の開花が急だったような気がする。3月下旬だというのに、まだ寒い日も続き、今年は春の訪れが遅いのかと思っていたら、昨日のテレビでは、東京の桜が満開で、多くの人がお花見に行っている様子が放映されていた。

慌てて家の前の小学校の桜に目をやると、一気に8分咲きのようになっていて驚いた。昔はよく見に行った千鳥ヶ淵の桜は、まだ東京の新型コロナの感染終焉の兆しもなく行けず、近場の千葉の桜で我慢することにした。

千葉市の動物公園近くの桜や県の総合スポーツセンター（天台）の桜も例年通り満開で、春の訪れを感じた。桜とモノレールの写真も一応撮れた。（2022年3月29日）

12　花見川の桜

今日（3月31日）も千葉の近場の桜を見に行った。八千代にある「やちよ農業交流センター」で、貸自転車を借り、花見川のサイクリングロードを、花見川沿いに40分ほど下り、薄いピンクの染井吉野の満開の桜を楽しみ、帰り（上り）は染井吉野と濃いピンクの陽光の桜の混在を楽しんだ。（2022年3月31日）

13　水路の上の桜並木

千葉では昨日夜に雨が降ったが、昼間は曇りで青空も少し見えたので、近所に桜を見に行った。例年見ている桜も剪定されたのか、昨年ほど絢爛豪華というわけではなく、少しスカスカで寂しいところが見られた。

ネットで桜の剪定を調べると、「『桜切る馬鹿梅切らぬ馬鹿』ということわざがありますが、桜にとって剪定はある程度ダメージにはなるものの、むしろ桜の健康のためにも必ずしないといけない手入れなのです。桜の剪定を行うのに最も適した時期は、桜の葉が落ち切った11月〜12月上旬までです」とある。

昨年の剪定で少し寂しい桜があるのも、桜の為に仕方がないのであろう。水路の上や大きな木は剪定が難しいのか、例年通りの桜が見られた。（2022年4月1日）

14　佐倉のチューリップ畑

桜の季節が終わると、次はサツキやバラそして紫陽花の季節になる。その間に、菜の花、パンジー、ポピー、チューリップなど小さめの草花が綺麗で、楽しませてくれる。

昨日（９日）は、「佐倉ふるさと広場」にチューリップを見に行った（車で30分）。広い畑に多くの種類のチューリップが咲いていた。その種類は80種にもなり、周囲には桜や菜の花も咲いていて、風車もあり、春を楽しんだ。

500円で畑から好きなチューリップを10本（JAFの会員は15本）自分で選んで球根から掘り持ち帰ることができる。30本のいろいろな種類のチューリップを持ち帰り、庭に植え、近所にも配り、春の訪れを楽しんだ。(2022年4月9日)

15　武蔵丘陵森林公園のポピー、ネモフィラ、ルピナス、山ツツジ

ツツジやサツキの季節にはまだ少し早いというので、ポピーやネモフィラの花畑を見に行くことにした。千葉県でもマザー牧場やドイツ村にも咲いているところがあるようだが、まだ行ったことがない場所ということで、埼玉の武蔵丘陵森林公園に行った。場所は、関越道の東松山から熊谷方面に10分のところにあった。

その森林公園は国営で、大きさは東京ドーム65個分という広さで、びっくりした。南の駐車場から、目指すお花畑（ポピー、ネモフィラ、ルピナス）まで、森の中の道を歩いて30分以上かかり、ちょっとしたハイキングだった。歩道とは別に一方通行の自転車道も設けられ、自転車乗りも快適であった。

　ポピー、ネモフィラ、ルピナス畑も広大で綺麗だったが、森の中を歩いている途中に見る、山ツツジがとてもきれいで、癒されまた。

国営ということで、県営の公園よりお金をかけていろいろ整備でき、入場料も安くできるのか、満足できる点を多く感じた。（入場料；大人450円、シルバー210円、中学生以下無料、駐車料金650円、貸自転車420円）。帰りには近くの日帰り温泉（「おがわ温泉花和楽の湯」）にも入り、千葉からは少し遠かったが、快適な1日であった。（2022年4月24日）

16　昭和の森公園のツツジ

昨年の4月22日のブログに「『千葉市の昭和の森公園』に、ツツジを見に行った（家から車で３０分）。平日で人は少なく、花は綺麗であった。広い公園の一角に鯉のぼりが上がっていた。その先の九十九里海岸にも行き、広々とした海を眺め、帰りに大玉の『白子の玉ねぎ』の10キロ入りを3袋購入し、近所の知り合いにも裾分けした。」と書いた。

今日は4月30日なので、「昭和の森」のツツジも満開であろうと期待して出かけた。公園内は連休２日目で、鯉のぼりも上がり家族連れは多かったが、ツツジが少ししか咲いていなくて、がっかりして１時間もいなくて退散した。ツツジの開花がまだなのか、最近の強風と雨で散ってしまったのわからない。

その後九十九里海岸にも行ったが、海は風が強く、砂浜に降りることはできなかった。今年の「白子の玉ねぎ」は雨で不作とのことで、値段が1.5倍になっていた。昨年と同じことをしても、同じになることはないことを体験した。（2022年４月30日）

17 　八千代京成バラ園に行く

昨年は、八千代の京成バラ園を見に行ったのは５月１日で、少し早過ぎて、3分咲きくらいであった。今年は、時期を見計らって、今日（5月18日）出かけた(車で30分）。バラはちょうど見頃で、どの花も咲き誇り、さまざまな種類のバラの絢爛豪華な饗宴を見ることができた。ただ昨日までの雨で、痛めつけられた花もあり、その点は少し残念であった。花の命の短いことも感じた。（2022年5月18日）

18 　水上、苗場の新緑を見に行く

このところ花ばかり見たので、少しは気分を転換して、新録を見に出かけた。行先は、関越道の沿線の2か所。最初の場所は、群馬の水上で降りて谷川岳の下を流れる川沿いの道を歩く予定だった。道がデコボコ険しく、少しで諦めた。でも川沿いの新緑は綺麗。滝もあった。

次に行った場所は、高速を月夜野で降り、猿ヶ京の温泉に入り、三国峠の50の急なカーブを登って行った苗場。苗場はスキーシーズンも終わり人影はほとんどない。そこのボードウォークの新緑を楽しんだ。水芭蕉の群生していた。夏のフジロックの時は何万人という人が訪れる場所だが、行きは誰にも会わず、熊に遭遇しないかだけが心配だった。

広い場所が緑の木々だけで、鳥のさえずりはきこえるが、人を誰も見ないというのは、都会では考えられない。空気も新鮮で、癒される空間と時間を満喫した。（2022年5月21日）

19　潮来のあやめ（菖蒲）を見に行く

バラの季節が終わると、次は、「あやめ」の季節ということで、今日（6月1日）は、茨城県の「水郷潮来（いたこ）あやめ園」に行った。千葉から比較的近く、東関東自動車道の「北千葉」で高速に乗って、成田空港の先の「潮来」で降り、下の道を10分ほど行ったところにあった（家から50分）。

ここに来たのは初めて。色とりどりのあやめ（菖蒲）がたくさん湿地に咲いていて、そばの水路には櫓（ろ）船が行きかい、潮来の歌が流れ、なかなか情緒溢れる独特の雰囲気であった。

入場料無料というのも嬉しい。「あやめ」の鉢も2鉢購入したので、これから家の庭でも楽しめる。帰りは利根川を渡り、対岸の佐原の香取街道沿いの昔の商家の町並みを散策した。

朝思い立っての、行き帰りも含め6時間の日帰り旅行であったが、江戸情緒を味わった半日であった。（2022年6月1日）

20 　茂原「服部農園あじさい屋敷」に行く

近所でもアジサイの花は、ちらほら見ることができるが、やはり群生してるアジサイを見たくて、茂原の「服部農園あじさい屋敷」に行った。

「総面積27,000㎡の屋敷に18,000㎡、250品種・10,000株以上のあじさいが色彩豊かに咲き競います」と、案内のあるように、いろいろな種類の色とりどりのアジサイが、森の丘陵に咲いていた。足場は悪くなるが、雨の日に見に来た方が、さらに趣があると思った。（自宅から車で50分ほど）

帰りは、、西暦784年に開基され、1028年に建立され、重要文化財になっている「笠森観音」にも寄り、千葉の初夏を楽しんだ。

21 検見川の大賀蓮を見に行く

1か月ほど前、日程を間違い見損なった東大の検見川グランド脇の大賀ハスを見に行った。駐車場があるかどうかわからなかったので、朝7時前に自転車で出かけた（自宅から20分ほど）。

早朝にも関わらず多くの人が見に来ていた。ガイドの人の丁寧な説明を聞きながら、蓮を鑑賞した。千葉公園の蓮はピンクの花が咲くものがほとんどであったが、ここの蓮は多くの種類の種類があり、心癒された。

ボランティアの人が親切で、この人たちによって、ここの大賀ハスが守られていることを知った。(2022年7月17日)

22　 佐倉西部自然公園のひまわり畑に行く

私達は、住んでいる地区の自治体がどのくらい自然保護や環境保護に努力しているのかをあまり知らない。ただ、行ってみて、この地区はいい自然が残っているなとか、公共の自然公園がよく手入れされているなと感じることはある。

今日は台風も通り過ぎたようなので、夏のひまわりを観たくて、ネットで調べ、近場の佐倉に出かけた。家から車で20分の所にある「佐倉西部自然公園」。ひまわりの花が畑に5万本植えられ、今咲き誇っているとのこと。

行ってみると、たくさんの黄色い背の高さほどのひまわり畑があり壮観。ひまわりはまさに夏を感じる花である。ボランティアの人が数人にて、昨日の台風で倒れたひまわり（花は健在）を無料で何本でもどうぞと言われ、持ち帰り、花瓶に飾った。

お稽古や塾のない時はいつも家でゲームばかりしている子ども（孫）二人もついて来て、ひまわり畑巡りの後は、その周りの原っぱで、トンボ（鬼ヤンマ、赤とんぼ、塩辛トンボ、オハグロトンボ）やバッタ（殿様バッタ）やカエルを追いかけ、自然（里山）を楽しんだ。

ネットでみると、「佐倉西部自然公園」は、佐倉市が自然保護のために費用もかけているところで、歴史のある佐倉市の見識も感じた(2022年8月14日)。